



●東日本大震災被災地の学校に教育図書への支援

「嬉しいのは、希望図書を選べること、すぐ使える教材を希望できるところ」

理想教育財団ではこれまで、岩手県・宮城県の6市4町の被災学校に、各教育委員会を通じて教育図書・教材を寄贈してきました。そのうちの一部の学校に、寄贈本の活用の仕方や今後のご希望を伺いました。

大きい津波の被害

平成23年3月11日に起きた、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東日本大震災では、地震に加えて津波が太平洋沿岸の各地を襲い、想像を超える被害をもたらしました。多くの尊い人命が、街が、失われました。

むろん学校も例外ではありません。文部科学省が被災地である岩手、宮城、福島3県のすべての幼稚園・学校に行ったアンケート調査（東日本大震災における学校等の対応等に関する調査・平成24年3月）によると、この地震によって約8割の学校等で校舎や体育館などの建物に、また約7割の学校等で教室内の備品などに被害が出ました。

津波では、ハザードマップ等により津波による浸水が予測されていた場所に位置していた学校等、実際に津波が到達した学校等を対象（149校）として調査が行われていますが、死亡・行方不明の子どもたちがいる学校等は20.1%を占め、校舎のある敷地まで津波が到達した学校等は約9割に上ることです。さらに、津波が到達した学校等で、校舎が浸水した学校等は5割を上回っています。

99校に寄贈

こうした状況を背景に、多くの学校で教育図書や教材などが流失、散逸し、授業に支障が出ていたとの情報が寄せられました。そこで理想教育財

団では平成23年度より、東日本大震災で被災した東北地方の小・中学校に対して、授業を進める上で必要な教育図書や、すぐに使いたい教材などを寄贈する事業を進めることとしました。

平成23年度には岩手県陸前高田市、釜石市、大槌町、大船渡市の各教育委員会を通じて小学校34校、中学校23校に、また平成24年度には宮城県石巻市、女川町、気仙沼市、南三陸町、岩手県宮古市、山田町、陸前高田市、大槌町の各教育委員会を通じて小学校75校、中学校24校に、それぞれ図書と教材を寄贈しました。

寄贈するに当たっては、それぞれの教育委員会、学校を訪ねてじかにご意見、ご要望をお聞きし、教育現場で真に求められている図書、教材を選定する



子どもたちも楽しそうに本を選ぶ（気仙沼小学校）



石巻市立桃生小学校

選択の幅の広さを歓迎

校舎、体育館等の学校施設がすべて津波によって流失した気仙中学校（吉家秀明校長・岩手県陸前高田市）では、当然ながら図書、教材をはじめ生徒個々の教科書、文房具、運動用具のすべてが流され、失われました。こうした中で気仙中学校では、英語検定の予想問題ドリルを希望しました。「家庭の経済状況にも目を向けられる年代の生徒たちにとって、合格してしまえば用のなくなる英語検定予想問題ドリルは、必要ではあってもなかなか購入には踏み切れないものです。こうした教材にまで選択の幅を広げていただき、ありがたいと思います。予想問題ドリルは他の図書と同様に貸し出しの形態をとっています。家庭でも活用しようとして借り受け、自主的に取り組もうという姿勢がたくさん見られ嬉しく感じます」（村上誠副校長）

選択の幅の広さを歓迎するのは、大槌小学校（平山敏也校長・岩手県大槌町）も同じです。同校の関谷えり子先生は次のように語ります。

「百科事典、デジタル教材、紙芝居をいただいたので、調べ学習や教科学習などの機会に活用させていただいています。書籍に限ったご支援はいくつかの団体様から頂きましたが、貴団体のように、他の教材も可、というお申し出はさらにありがたく思いました」

大槌小学校は津波で2階まで浸水し、火災被害にも見舞われましたが、校舎は2012年8月、大槌町の庁舎として生まれ変わっています。子ども

こととしました。また津波による被災で多くのものが流失・散逸したという特殊な事情の中にあるため、教育図書（書籍類）に限定せず、授業で使うに使用したい学習ドリルなどの教材も寄贈図書の選択肢の一つとしました。

このようにして2年度にわたって小・中学校99校に教育図書の支援をしたわけですが、これに対して多くの学校から、お礼状とともに、図書室の写真や子どもたちの活用の様子が寄せられました。被災学校の子どもの今を知り、今後を考えるために、その一部の学校に、改めて電話でお聞きしたり、直接出向いて取材させていただきましたので、ご紹介します。



仮設の校舎で、紙芝居を読んでもらう1年生と寄贈された百科事典（大槌小学校）



朝の読書でも寄贈本が活躍（志津川中学校）

もたちは大槌中学校・安渡・赤浜・大槌北小学校と一緒に同町内の「大槌ふれあい公園」の仮設校舎で勉強しています。

それぞれのニーズに沿って 寄贈本を選ぶ

津波は多くのものを奪いましたが、女川第一小学校（高橋良一校長・宮城県女川町）では子どもたちの4割の家が流失したといいます。高台にあった校舎には津波が到達しませんでした。高台にあって揺れで被害が出たこと、校庭に仮設住宅が建てられたため、女川第二小学校に間借り中です。

「地震や津波による学校の図書などへの被害はないのですが、移転の際にほんとうにわずかなものしか持ち出せなかったもので、子どもたちの周りに本がない状態が続きました。ジャンルとしては、総合的な学習の時間や社会科などで調べる手立てにと、植物図鑑など実用的なものばかり希望しました。子どもたちが自然に本を手にとって読んでいる姿を見るとき、支援していただき、ありがたいことだと思いました」（高橋良一校長）

津波の被害に遭い、校舎が使えなくなった南気仙沼小学校は、一時、被害の少なかった気仙沼小学校に間借りする形を取っていましたが、2012年4月、2校は統合され、新しい気仙沼小学校（山崎昭校長・宮城県気仙沼市）として再出発をしました。

「いろいろな方々から図書をご寄贈いただくのですが、理想さんの場合には、こちらのほしいものを選



べるといふ点で、その違いは大きいですね。図書
の選定は図書館教育の主任が担当して、事典
や図鑑を希望しました。教材もOKというの
で、全学年の国語や算数の習熟プリントをそろ
えさせてもらいました。日々使う教材がどうし
ても不足しがちですね」(山崎昭校長)

津波による大きな被害のなかった学校もあり
ます。桃生小学校(佐藤幸弘校長・宮城県石巻市)
は海から離れていたために、また志津川中学校
(菅原貞芳校長・宮城県南三陸町)も高台にあっ
たために難を逃れました。

桃生小学校では国語辞典、漢字辞典を希望し
ました。

「うちの図書室の蔵書自体、もともと多くはな
いのですが、特に辞書関係はかなり古いものを
まだ使っている状態です。最近パソコンを辞
書代わりにするケースも多いのですが、やはり
学校では辞書を引くことが原則です。図書室に
置いておくだけでなく、国語の時間やスキルタ
イム(全学年。漢字を習得したり、計算力を高
めたりする時間)に使っています」

志津川中学校では総合的な学習や朝読書で活
用する本を選びました。

「ご寄贈いただいた図書は図書室に置き、おも
に朝読書で利用しています。朝読書は毎朝10分
間、生徒が自分の好きな本を読んでいます。多
くの本の中から自分が興味を持った本を選べる
ことで、生徒は喜んでいきます。また、図書をご
寄贈いただいたことで、総合的な学習の調べ学



女川町立女川第二小学校



陸前高田市立気仙中学校



宮古市立津軽石中学校

子どもたちの変化に注意して

最後に、大きな苦しみや悲しみを経験したこと
による、気になる子どもたちの変化についてお聞き
しました。

女川第一小学校の高橋良一校長は、

「学校生活に限れば今はほぼ普通の生活に戻りつ
つあります。しかし、家に帰れば仮設住宅での生活で
すし、保護者の仕事の問題もあり、個人個人はかな
り不安を感じているはず。学校にいる限りはそ
うした悩みは感じられませんが、阪神淡路大震災、
北海道南西沖地震(奥尻島)などの経験では、1年
半ぐらいたった後から問題行動が出ていると聞いて
います。子どもたちの心のケアについては、注意深
く見守っていかなくてはいけないと考えています」
気仙中学校の村上誠副校長も、同様のことを語り
ました。

「今なお震災は現実のもととして受け止めざるを得ない状
況にあります。スクールカウンセラーの先生からは、落
ち着いてきて、初めてさまざま現実と向き合い、カウ
ンセリングが必要になる子どももいる」とうかがっていま
す。幸いスクールカウンセラーの先生方にも生徒に接して
もらっていますが、私たち教職員も、震災ということ
を心に留め置きながらも、普通の中学生としての成長を促
すよう、毎日、努力を積み重ねています」

※写真はいずれも各学校より提供されたものです。